



熊事研会報

第 155 号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 宮崎 文子
編集代表 研究部長 山本 晋也

～目次～

- この1年を振り返って（会長挨拶）
- 上益城郡学校事務職員研修会レポート
- 研究部付き副会長として今年1年研究部活動を振り返ってみて
- 研究部で学んだこと
- 功労者よりメッセージ
- あとがき



この1年を振り返って

熊本県学校事務研究協議会 会長 宮崎 文子

今年度を振り返ると、とにもかくにも参集という形で6月の総会及び研究会、1月の分科会のある研究大会を開催できたことに尽きます。会長を引き受けた令和元年度の大会（令和2年1月開催）は平常どおり開催できたものの、その直後にコロナ禍となり、未知の感染症の前に会員、そして会員が所属する学校の安全を第一と考え参集型の研究大会を断念せざるを得ませんでした。会長職について5年目にして4年ぶりに参集での研究大会を開催でき、直接会員の皆様と顔を合わせられたこと、会場で休憩時間などに談笑をされている会員の皆様を見た時に参集で開催できたことを何よりうれしく思いました。

分科会運営を知る役員も少なく、不安な中で準備を始めました。分科会の講師選定そして依頼、当日のシナリオ作り、分科会の核となるものの検討、どの点でも苦労して作り上げた分科会でした。当日は大きな混乱もなく無事に開催でき、全体会・分科会とも好評で、アンケートからはおおいにモチベーションアップに役立っている様子がわかりました。各々が学校での実践に結び付けてほしいと思います。役員として学びの場を提供できたことに達成感を感じました。熊事研の令和5年度の研究テーマ 子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創～「つながる！」学校事務職員～ 昨年度から研究部長が替わり、経験年数の浅い研究部長が熊事研の研究を引っ張ってくれています。研究に多くのエネルギーと時間をかけて勉強し情報を集め、会員の現状を踏まえて、学校事務職員は学校において今後どのように仕事をしていくべきか提案してくれています。わかりやすく、かみくだいて丁寧に説明されています。社会の状況はめまぐるしく変化し、学校も子どもたちもその影響を受けています。若手もベテランも自分の職にしっかり向き合ってもらいたいと思います。私たちは公務員です。子どもたちの豊かな育ちを支援していく使命を果たすべく努力する必要があると思います。

今年度は全事研の前会長 阿部 貴子様にお越しいただき文部科学省と結びつきの深い全事研の研究の方向性についても詳しくお話いただきました。岡山からお越しいただいた大天 真由美様にも、その数々の実践から多くの学びがあったと思います。大天様も学校では朝8時から昇降口で子どもたちを出迎えると言われていました。大天様自身いろいろなことを深く学ばれ、タイムマネジメントをしっかりと行い実践を積み重ねられています。同じ学校事務職員として自分も頑張らなければと背筋が伸びる思いです。

また、今まで九州役員研修会として九州7つの県の事務研組織で連携をとってきましたが、今

年度は九州地区学校事務研究会連絡協議会として組織を立ち上げました。今までと大きく変わりはないのですが、組織として整えたことで各県の研究団体の連帯感が強まったように感じています。他県の研究大会への参加も刺激になり勉強になります。日程の情報を共有していますので随時会員の皆様にも提供していきます。是非、御参加ください。そして令和8年度には全事研佐賀大会が開催されます。平成27年度の熊本大会の折に九州各県が分科会を持ってくださったので、その恩返しとして熊事研も分科会を担当します。すでに全事研実行委員会は立ち上がっていますが、今年度から分科会発表のためその活動は活発になっていきます。実行委員会だけにまかせるのではなく、会員全員が少しずつでも関わって熊事研全体で作り上げたレポートになればと思っております。協力をよろしくお願ひします。

もうすぐ今年度がおわり、4月には新年度が間髪入れずに始まります。学校事務職員にとって一番しんどい時期ですが、ワークライフバランスも大切にしながら乗り切っていきましょう。今年度1年間本当にお世話になりました。

功労者よりメッセージ

今年度、功労者表彰を受けられた先生方より、後輩の熊事研会員へメッセージをいただきました。先輩方が築いてこられた熊事研が、これから更に発展していくよう、会員の皆様と一緒に作りあげていけたらと思います。メッセージをいただき、ありがとうございました。

感謝

昭和59年（1984年）の採用から40年間を無事に勤めることができたのは、これまで出会った方々のおかげです。

初めての勤務日が終わって、駅前の公衆電話から連絡した私をいたわってくれたあなたにありがとう。何もわからない私に時間を作って教えてくれたあなたにありがとう。事務日より発行の勇気をくれたあなたにありがとう。研究大会での学びをどう生かせばいいかを教えてくれたあなたにありがとう。事務引継ぎ書の大切さを教えてくれたあなたにありがとう。少しの妥協が与える影響を教えてくれたあなたにありがとう。同期会のお世話をしてくれたあなたにありがとう。私のつたない話を聞いてくれたあなたにありがとう。

私に出会ってくれたみんなにありがとう。おかげさまで功労賞をいただくことができました。



上天草市立大矢野中学校 中野 順子



事務をする前に民間に勤めていたので、35年ぐらいでしょうか。アツという間でした。職場は基本「楽しく」がスタンスだったので、毎日、元気に登校することができました。

仕事に関しては、初任の頃は先輩の先生の学校に行って手取り、足取り習いました。今でもそうですが、わからないことや初めてすることがあったら自分で考えることはせず、すぐ人を頼ります。それでいいんですか、いいんです。せなん事はほかにもいっぱいあるし、事務職員は広く浅くですよ。こうして何とかやってこれたのも周りにいた事務職員の先生方のおかげです。感謝です。最近特に物忘れがひどくなってきました。人の名前が出できません、昔、PTA 総会の中で職員紹介の場面で校長さんが詰まっていたのを冷笑していた自分が今まさにその轍を踏んでいます。これも年相応ということでしょうか。



長く勤められた理由の一つが私は給食です。特に忘れられないのは今は廃校となった岳間小学校の里芋とイカの煮っころがしです。具材は里芋とイカだけ、シンプルですが抜群においしかったです。毎月のメニュー表においしそうなおかずアンダーラインを引くのが楽しみです。何をするにも「健康」が必需品です。先生方も楽しく給食を食べて事務職員ライフを楽しんでください。

熊本市立日吉中学校 徳永 治

私は、学校事務職員として平成元年4月に初任の小学校に赴任しました。最初は分からないことばかりで、いつも近隣の学校の先生に書類を持参して尋ねたり、電話で尋ねたりの毎日でした。

思い起こすと当時は、マイタッチ計画でやっと学校にPCが入ってきた頃で、ワープロが主流でした。最初は手書きで作っていた給与の校内控除差引を、PCで差引書を作成するために、教えてもらって初めて触ったことを憶えています。まだ、給与は現金支給、給与や旅費の書類は、ゴム印やカーボン紙を使って手書きで作成していた時代でした。

それからPCでの業務が主流となり、アナログ人間の私は、周りの人に尋ね、説明書きを必死に読んだりして、何とか乗り越えてきたように思います。

これから先も、様々な変化が訪れると思います。時代にマッチした個々の力量を上げていくことも必要だと思いますが、私は学校事務に携わって、子どもの笑顔や成長する姿を見て、やりがいを感じたことも多かったです。

県事務研でも、様々な講演や実践発表を聞く度に、何度もこれからも頑張ろうという気持ちになりました。この場を借りて、関わった方に感謝の気持ちを込め、「ありがとうございました。」という言葉贈ります。



球磨村立一勝地小学校 北里 好子



受賞おめでとうございます



日時：令和5年10月17日（火）14：00～16：30

会場：御船町カルチャーセンター

【研修会内容】

1. 会長あいさつ
 - ① 秋季大会について
 - ② 全事研加入について
2. 全体研修 山本研究部長より
 - ・三角中紹介、自己紹介
 - ・R4 研究部の取組について
 - ・R5 研究部の取組について…ファシリテーションについて、合意形成について、砂漠脱出ゲーム（グループワーク）



3. グループ研修

給与旅費 A、給与旅費 B、財務 A、財務 B、情報、企画、研修の7つの班に分かれて研修

- ① 給与旅費 B
 - ・給与の特殊事例について
 - ・現況調査の工夫について
（住居手当の不支給証明書・最新の契約書について、単身赴任手当の確認について）
- ② 情報
 - ・だれが見ても分かるデータの保存方法、管理方法について
 - ・プリントスクリーンについて
- ③ 企画
 - ・目指す事務職員像（上益城版）の作成

【感想】

上益城郡学校事務職員研修会に参加させていただきました。

まず、研究部長より昨年度から今年度の研究部の取組についての説明がありました。ご自身の取組例を交えての説明で、研究テーマと自校での取組を関連づけて考えることができました。また、グループワークを通して、合意形成の難しさやファシリテーションの大切さを体感し、より研究テーマを身近に感じることができる内容でした。

グループ研修では、7つの研究テーマに分かれて、それぞれ研修が行われていました。①給与旅費 B 班では、給与の特殊事例や現況調査の工夫について話し合わせ、各共同実施や事務センターの工夫を共有されていました。②情報班では、だれが見ても分かるデータの保存方法・管理方法について及びパソコン作業の効率化についての情報共有をされていました。③企画班は、目指す事務職員像（上益城郡版）を時代に合わせて見直しをされていました。どの班も和やかな雰囲気の中、業務を改善しようと前向きで活発な話し合いが行われていました。とても勉強になりましたし、明日からの意欲につながる研修会でした。

研究部付き副会長として今年1年研究部活動を振り返ってみて

副会長 平野 哲也

研究部付き副会長として2年が経ちました。昨年度と本年度の研究部員は若返りし、本当に若い世代（世間で言われているZ世代）の学校事務職員が100パーセントを占めています。月に1回子どもたちの笑顔のために、研究班と研修班と情報調査班に分かれて協議をしてきました。

研究班は、ホワイトボードを使って研究のキーワードを共通理解したり、たくさんの矢印を書いてどこどこが、なにとなにが繋がっているのかを協議したりしていました。

研修班は、分科会ごとの研修のテーマを決め、そのテーマにどのような講師が適任か、どのような会場配置にするかを協議していました。

情報調査班は、研究部会の時も資料とパソコンをつかって一生懸命もくもくと作業を進め、自宅に帰っても学校でも作業に取り掛かり、メールで会長や副会長に確認作業をしてきました。

研究部長は、毎回の研究部活動における方向性を示すために資料を準備して15名を先導してくれました。

私が研究部員の頃はこの1日が苦痛で苦痛でたまりませんでした。毎回研究のための協議をしていると意見はぶつかるし、答えが出たかと思うとすぐ壁にぶつかり、壁にぶつかったまま帰宅するので、頭の中が本当にパンクしそうでした。研究部長の時はその経験から、研究部員を同じ気持ちにさせたくないという思いでいっぱいでした。

しかし、この2年はみんな笑顔で、それぞれの班別の取組に打ち込んでいました。なぜ？この若い人たちは、この答えが出ない、正解がない「研究」というものに楽しそうに打ち込めるのだろうと考えていました。

最近分かったこととか感じたことは、

- ① この集団のリーダーは経験こそないが、研究部長が提案する「研究の柱」からブレない軸を持っていること。経験がないリーダーなので、リーダーとしての自覚と判断を班員の意見をしっかりと受け止めながら多角的視点から行っている。
- ② 班員の肯定的な意見はもちろん否定的な意見もしっかりと受け止め協議し、効果的なコミュニケーションのもと周囲への影響力を考えて対応している。
- ③ リーダーの意見に強引に導こうとせずに、理想の追求を図り、班員の意見を尊重するために、周囲からの目を気にするのではなく、熊事研組織の今までの取組（グランドデザイン）を基に修正し、会員の期待に応える努力をしている。

このようなリーダー像については「チームとしての学校」を実現するための「教育における分散的リーダーシップ論」に酷似しています。チームとしての学校においては、トップダウンではなく、すべての学校スタッフがリーダーシップを発揮できる体制が求められています。研究部はチームとしての組織になっているからこそ研究部員が笑顔で研究部活動に取り組んでいることに気づきました。

また、「無理」「できない」の声は全く聞こえません。無理な理由、できない理由を語る前に、今できること、今求められていることを協議できるZ世代の組織です。私たち総括職員が求められている能力を、すでに持っている研究部員に刺激を受けながら1年間役目を終えることが出来ました。

私たち学校事務組織の研究のブレインは、素晴らしい人材ばかりです。これからの活動を応援してあげてください。褒めてあげてください。もっと、子どもたちの笑顔があふれる学校の実現と学校事務職員の役割について示唆してくれると思います。

研究部で学んだこと

2月22日(木)に今年度最後の研究部会を行いました。今年度は各班、昨年度とは異なる取組も行いました。1年間の集大成となる研究大会を終え、研究部員に、今年度学んだことを尋ねてみました。

研究部長 山本

- ・組織の雰囲気づくりの大切さ。良い関係性は良い過程を生むこと。
- ・相手(自分以外の他者や会員の皆さん)のことを考えた研究を行う必要があること。
- ・研究大会までの過程の重要性。その過程が財産であること。

研究班(山下・田中・松川・水永・宮端)

- 組織及び心理的安全性の大切さ
- 研究大会の企画・運営を通して、他の市町村の事務職員の方とつながることができました。このつながり、そして研究部での経験を今後の業務にも活かしていきたいと思います。
- 他地域の方とのつながりが持て、コミュニケーションをとり、関係性が深くなったことで、自分の業務に対しての考え方が増えたと思います。
- つながるためのスキルや心理的安全性の確保をすることがいかに大切か、肌で感じることができました。
- 事務職員という職や組織において求められるものを知り、今後の自分が目指したい事務職員像を考えるきっかけになりました。



研修班(油布・服部・中西・佐藤・中川・藤山・可徳)

- 4年ぶりの分科会を考えるのは、正直とっても大変でした!(笑)でも研究部の皆さんとああでもない、こうでもない、と一生懸命取り組めたことは財産になりました。「つながる」研究部になれたと思います。皆さんありがとうございました!
- 計画・依頼・調整等、運営側の苦労を改めて痛感しました。反省点も数多くありますが、達成感や絆など多くの学びや経験を得られる貴重な1年間でした。
- 学校事務職員を見つめ直す機会となり、新たな魅力や可能性を感じました。多くの方と出会い様々な考えに触れることで刺激を受けましたし、つながることの大切さを学ぶことができました。
- 一から企画を立ち上げ運営すること
- 学校事務職員としての働き方を考えるきっかけや刺激が沢山ありました。「つながる」ことの大切さを実感できました。
- 大会運営計画や協議内容の検討などの様々な過程を知り、初めての経験でとても勉強になりました。
- 「つながる」ことによって、自身のキャリアと照らし合わせ、広い視野で物事を見ることの大切さを学べました。



情報調査班（大塚・桑村・中川）

- 学校事務について考えながら、大会運営、必携作成等に取り組みました。たくさんの人とつながることもでき、学びの多い一年になりました。
- 大会運営や事務必携作成等に携わることで、多くの人に支えられて学校事務職員として働いているんだと感じ、感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思いました。
- 会報や研究集録の作成に携わったことで身についたスキルが多くあり、日々の業務の効率化につながりました。



あとがき

今年度も、会員の皆様の御協力により6回の会報（第150号～第155号）を発行することができました。原稿依頼の際には快くお引き受けいただき、関係の皆様には厚く感謝申し上げます。

今年度は出張取材と称し、都市事務研、新設学校事務センター、熊本県公立学校事務職員協会主催研究会へお邪魔しました。会報をより充実したものにするための新しい試みでしたが、自分自身も学びや発見が多くあり、貴重な体験となりました。会報でのレポートを通じて、会員の皆様にも届いていれば幸いです。

末筆ながら、皆様の御健康と、今後の学校生活のますますの充実をお祈り申し上げます。1年間ありがとうございました。来年度の会報もおたのしみに！

熊本県学校事務研究協議会 研究部 情報調査班 会報担当



1年間ありがとうございました！